

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービスアニマート名護うむさの森		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月19 日		～ 令和8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	令和8年 1月19 日		～ 令和8年1 月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子供の一人一人の状況や変化に応じて活動内容を見直し、それぞれに合った支援を柔軟に行っている点が事業所の特徴である。	日々の打ち合わせやミーティングの時間を使って、その日の支援の振り返りながら情報共有をしている。子供の様子をながら、続けて行くことや見直すことを話し合い、次の支援につなげている。	ケースについて話し合いながら、職員間で支援の視点を共有し、日々の支援につなげている。
2	子供達が安心して楽しく過ごせる環境づくりを大切に、保護者からも信頼を得られている点が、事業所の良さである。	送迎時などのちょっとしたやり取りの時間も大切に、子供や保護者の声にも丁寧に耳を傾けるよう心がけている。	保護者から得た情報は職員間で速やかに共有し、日々の支援に反映できるよう取り組んでいく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との関りやつながりについては、事業所として今後さらに広げていく余地があると考えています。	イベントの際には地域のお店を利用するなど、これまでも地域交流を行ってきましたが、活動場所は一部の公園や決まった場所に偏っている状況です。	今後は、地域にある公共施設や店舗なども目を向け、情報収集を行いながら、交流の機会を増やし、地域に開かれた事業所運営につなげていきたいと考えています。
2	基準を満たした環境の中でも日々の支援を行っており、限られた空間であるものの、活動内容や利用者の状況に応じて工夫をしながら対応をしている。	活動内容によっては室内が手狭いと感じられる場面があり、また利用者の成長に伴い、現在の環境では十分とは言えない部分がある。また、相談室は確保できているものの、広さに限りがあり、体調が優れない際に横になって環境を十分に整えられない状況である。	精神的に不安定な際には相談室へ移動し、落ち着いて過ごせるよう配慮している。今後は相談室の活用方法や環境面を見直し、より安心して過ごせる環境づくりにつなげていく。また、活動内容や利用者の成長に応じて、空間の使い方を工夫していく。
3			